

令和4年1月7日

第546号

横浜市立日吉台小学校

教育目標

みずから生きる

ともに生きる 日吉台の子

ひよびだい

令和4年 壬寅(みずのえとら)の年が始まります。

校長 玉置 恭美



新しい年の始まりです。例年より寒さの厳しい冬休みだったようです。スキー場は、大雪が降ったことで賑わっていますが、豪雪地帯の方々には雪かきに追われる日々となっているようです。4日からは、部活動に向かう中高生が見られ、年末年始の休み中は旅行や帰省で移動する人も多くあり、昨年と比べると少しだけ様相の違う冬休みでした。数年ぶりでご親戚に会えた人も多かつたのではないのでしょうか。

たのではないのでしょうか。

「無観客」という枕詞がついた催しが多かった令和3年。握手をしたり、手を繋いで鬼ごっこをしたり、また、大勢で集まって食事をしたりすることが、ここ数年制限され、人と人とのつながりを保つことの難しさを感じられます。インターネットの普及により、対面でなくても会議が可能にはなりましたが、実際にお会いして言葉を交わすことが、心を通わせる、心の潤いを保つ術なのだと思います。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策は今年も続きます。予防をしつつではありますが、できる限り「つながり」を大切にして、子どもたち、保護者、地域、そして学校がしっかり連携し、よりよい日吉のまち、そして日吉台小学校を創っていきたいと願い、年頭に思う今年の一文字、モットーとなる文字として「連」が浮かびました。手と手が心が連なる、地域・保護者と学校が連携する、日吉台小学校そして日吉のまちの歴史が連なっていく、、、。そんな一年になることを祈念しております。

十干(じっかん)と十二支(じゅうにし)を組み合わせたものが「干支」ですが、今年は「壬寅」(みずのえとら)。新たなものが生まれる、そして動き出す、そのような意味があるそうです。まだまだ制限の多い生活ですが、そんな中でも、児童の皆さんが新たなものに挑戦したり、アイデアを出し合ってよりよい日吉台小学校にするために何かを生み出したりするような年になることを願います。2023年に日吉台小学校は開校150周年を迎えます。周年行事に向け、継続・連続した取組を始めるのが今年です。日吉のまちと日吉台小学校の歴史をどのようにとらえ、自分たちは何ができるのか。子どもたちが話し合い、考え合って素敵な取組を始めることができる2022年となることでしょう。今年もよろしくお願いいたします。

